守山企業景況調査報告書

（第 49 回）

令和 3 年 10 月～令和 3 年 12 月期　実　績

令和 4 年 1 月～令和 4 年 3 月期　見通し

守山企業景況調査について

（令和 3 年 10 月～令和 3 年 12 月期）

1. 調査方法

守山商工会議所会員企業 68 社に対し調査票を配布し、回答を依頼した。記入済み調査票は商工会議所へ持参、郵送、Fax 等により回収した。

2. 調査企業

産業別	調査対象企業数	有効回答企業数	回収率
小売業	19	13	68.4%
製造業	13	8	61.5%
建設業	12	9	75.0%
サービス業	19	13	68.4%
卸売業	5	4	80.0%
合　計	68	47	69.1%

3. 調査期間

調査期間は、実績を令和 3 年 10 月～令和 3 年 12 月、見通しを令和 4 年 1 月～令和 4 年 3 月とし、調査時点は令和 4 年 1 月 31 日とした。

4, 調査データについて

調査の結果を示す指標として DI 指数を採用した。DI 指数とは DIffusion　Index（景気動向指数）の略で、各調査項目について、「増加」・「好転」したなどとする企業割合から「減少」・「悪化」したなどとする企業割合を差引いた数値である。

「業況」、「売上」、「採算（経常利益）」、「従業員」の DI 指数は前年同期との比較である。

「資金繰り」、「資金の借入れ難易度」の DI 指数は 3 カ月前との比較である。

「取引の問い合せ」、「採算（経常利益）の水準」の DI 指数は過去との比較ではなく、調査時点での水準を聞いたものである。

調査の概要

令和3年10月～令和3年12月期の守山企業景況調査の結果は、以下の通りである。調査結果はDI指数（景気動向指数）を用いて示している。
DIは、「増加」「好転」等の企業割合から「減少」・「悪化」等の企業割合を差引いた
数値である。そのため、DIが±0の状態であれば、「増加」・「好転」等の企業割合と「減少」・「悪化」等の企業割合が同じであることを示し、プラスの数値であれば「増加」・「好転」等の企業割合が「減少」・「悪化」等の企業割合よりも多いことを示す。逆にDIがマイナスの数値であれば、「増加」・「好転」等の企業割合が「減少」・「悪化」等の企業割合よりも少ないことになる。
また、グラフは右肩上がりになれば良い方向に向っていると判断でき、右肩下がりになれば良くない方向に進んでいると考えられる。

令和3年10月～12月期の調査結果では、売上高、資金繰りの指標の数値が上昇した。

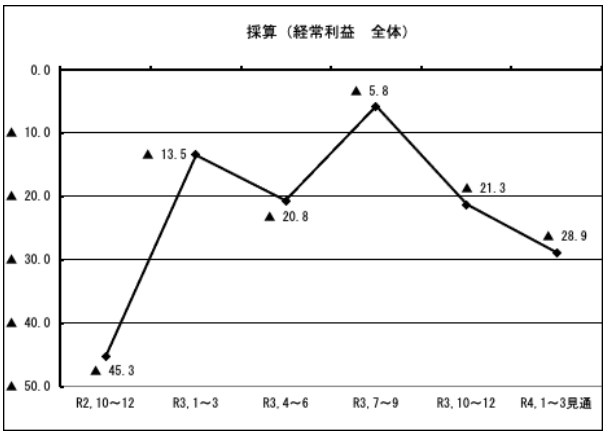
＜業況＞
業況DIは▲8.7で前回調査の0.0から8.7ポイント低下した。業種別では、小売業▲25.0（前回調査比▲17.3）、製造業▲25.0（前回調査比▲41.7）、建設業▲11.1（前回調査比▲11.1）、サービス業0.0（前回調査比+7.7）、卸売業50.0（前回調査比+50.0）とサービス業と卸売業で上昇した。
1月～3月期見通しは全体で▲20.0である。

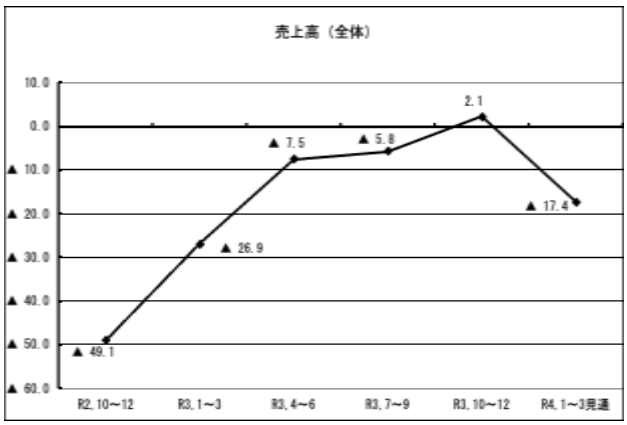
＜売上高＞
売上高DIは2.1で前回調査の▲5.8から7.9ポイント上昇した。業種別では、小売業▲30.8（前回調査比▲23.1）、製造業25.0（前回調査比+16.7）、建設業▲22.2（前回調査比▲12.2）、サービス業15.4（前回調査比+36.8）、卸売業75.0（前回調査比+41.7）であり、製造業、サービス業と卸売業が上昇した。
1月～3月期見通しは全体で▲17.4である。

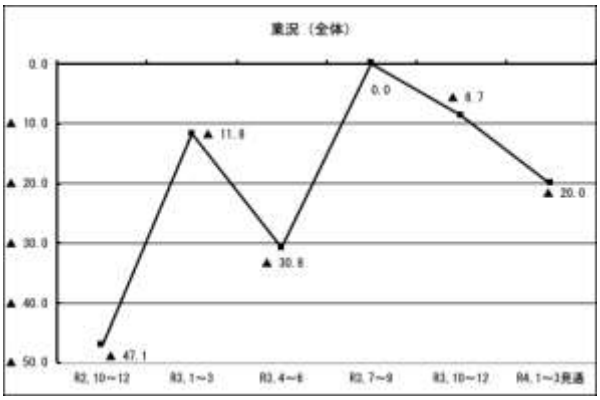
＜採算（経常利益）＞
採算（経常利益）DIは▲21.3で前回調査の▲5.8から15.5ポイント低下した。業種別では、小売業▲38.5（前回調査比▲23.1）、製造業▲12.5（前回調査比▲29.2）、建設業▲33.3（前回調査比▲23.3）、サービス業▲15.4（前回調査比▲1.1）、卸売業25.0（前回調査比+25.0）で卸売業のみが上昇した。
1月～3月期見通しは全体で▲28.9である。

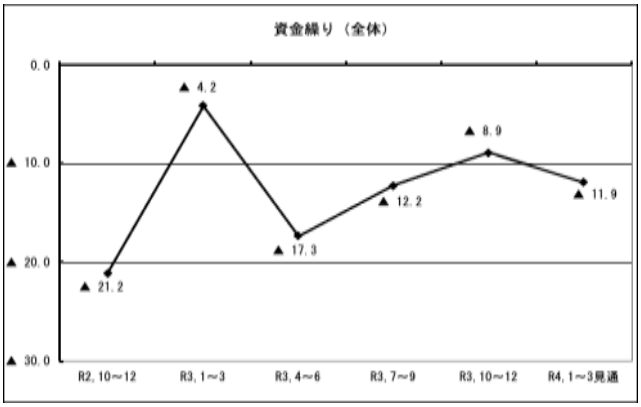
＜資金繰り＞
資金繰りDIは▲8.9で前回調査の▲12.2から3.3ポイント上昇した。業種別では小売業▲7.7（前回調査比+0.6）、製造業▲14.3（前回調査比▲14.3）、建設業0.0（前回調査比+20.0）、サービス業▲16.7（前回調査比+4.7）、卸売業0.0（前回調査比±0.0）で小売業、建設業とサービス業が上昇した。
1月～3月期見通しは全体で▲11.9である。

＜コロナウイルスの影響などの意見＞
・コロナ感染が増加すると、計画した旅行が全てキャンセルになり売上げが減少します。
・せっかく上向いた需要がオミクロン株の急激な拡大でキャンセルが相次ぎ、新規の予約も見込めない状況です。先行き不透明ではありますが、できることをやりたいと考えています。
・３密の割引き、バル等様々な施策のおかげでとても助かりました。長い期間延長していただきありがとうございました。
・地域行事や法事などの現象により注文が丁重で、皆がマスクを外せるようにならないと需要は戻らないのではと考えています。
・社会保険料が年々上っています。仕入価格も上昇中で苦しい経営環境です。









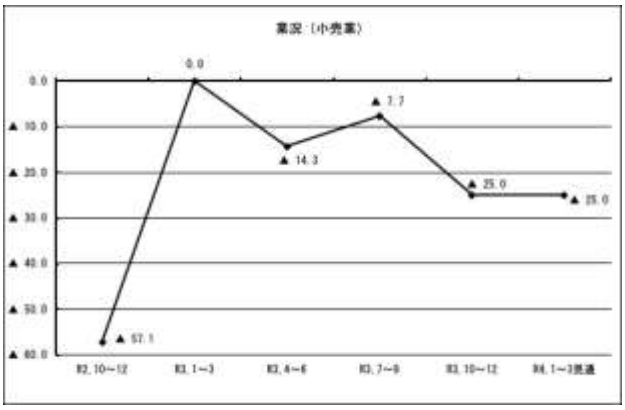
小売業

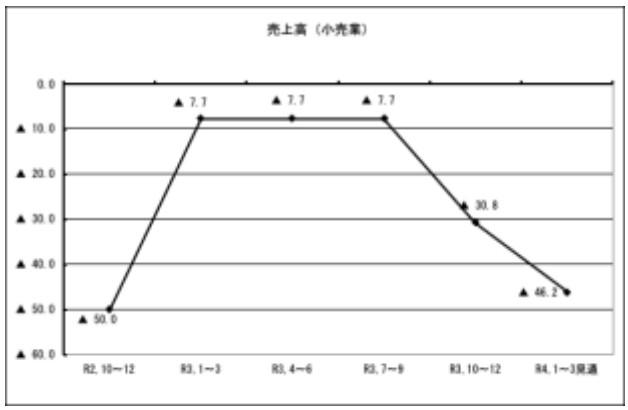
小売業の業況 DI は▲25.0 で前回調査に比べて 17.3 ポイント低下した。前回調査時点での見通しの▲16.7 よりもさらに低い数値になってしまった。今回調査での１月～３月見通しも▲25.0 で大きく現状が変わらないと考えられている。

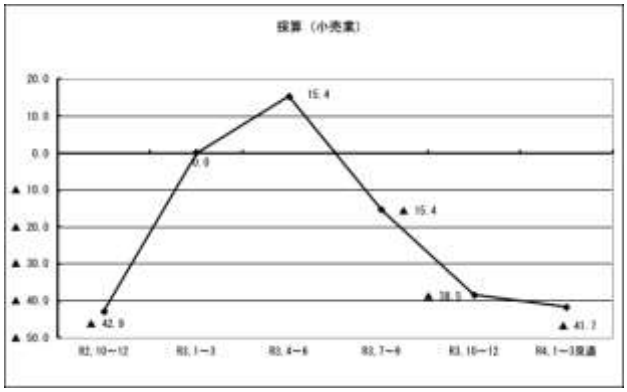
売上高 DI は▲30.8 で前回調査に比べて 23.1 ポイントの低下であった。前回調査まで３四半期連続で▲7.7 であったが、今回調査では一気に数値が落ちている。１月～３月見通しはさらに悪化を予測して▲46.2 となっている。

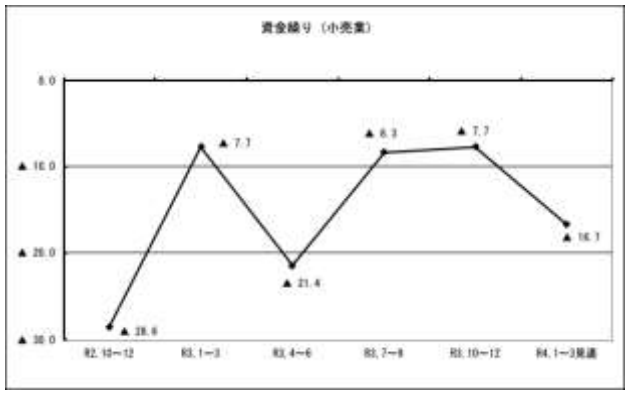
採算 DI は▲38.5 で前回調査より 23.1 ポイント低下した。これで２四半期連続の低下である。１月～３月見通しも▲41.7 でさらなる悪化を予想している。

資金繰り DI は▲7.7 で前回調査より 0.6 ポイント上昇した。前々回調査の▲21.4 に比べると今回調査と前回調査の２四半期は落ち着いた動きになっている。１月～３月見通しは▲16.7 と悪化の予想になっている。









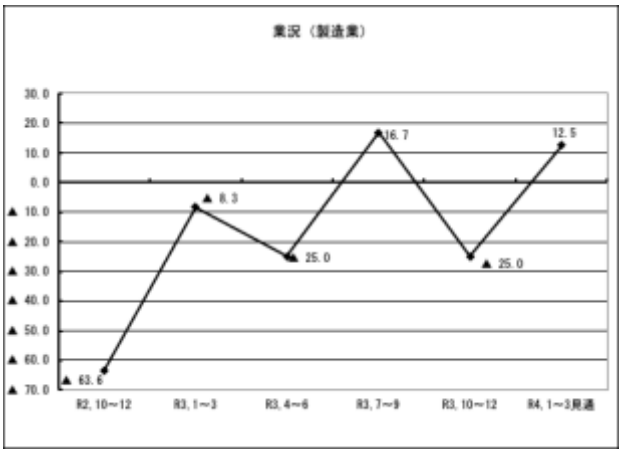
製造業

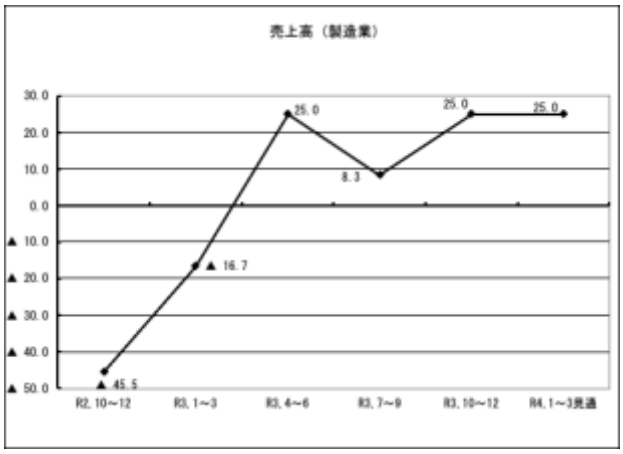
製造業の業況 DI は▲25.0 と前回調査に比べて 41.7 ポイント低下した。前回調査で上昇した分だけ今回調査では低下している。ただ、1 月～３月見通しの 12.5 まで含めてみると、上昇または安定の傾向に見える。

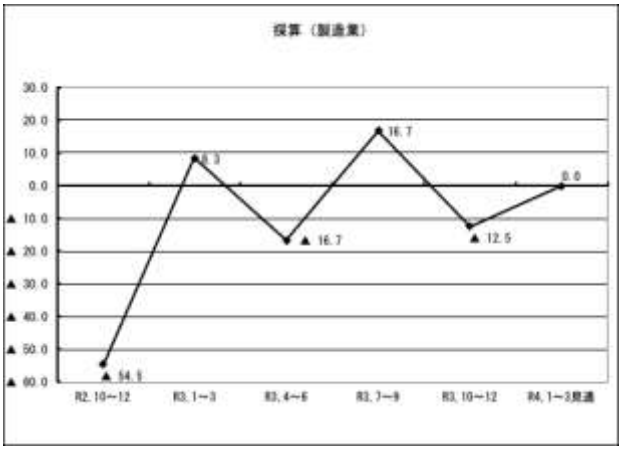
売上高 DI は 25.0 で前回調査と較べて 16.7 ポイント上昇した。売上高は前回調査で低下した分が今回調査で上昇する結果になった。1 月～３月見通しも 25.0 であることなどを考えると、全体として安定的な売上の傾向であると考えられる。

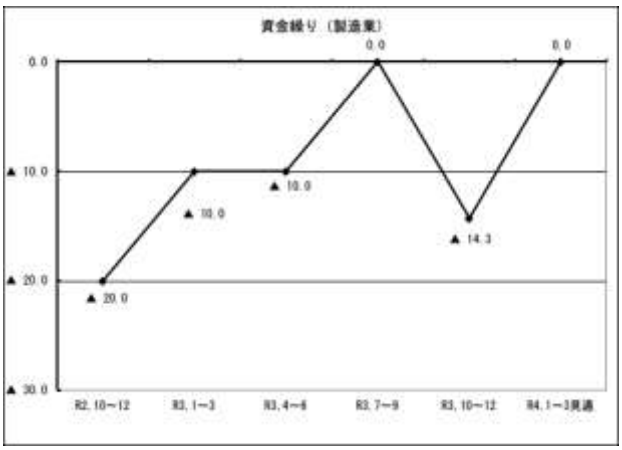
採算 DI は▲12.5 で前回調査より 29.2 ポイント低下した。採算は業況と同じく前回調査で上昇した分に近い低下であるが、1 月～３月見通しも含めて考えると業況と同じく、上昇または安定の傾向に見て取れる。

資金繰り DI は▲14.3 で前回調査に比べて 14.3 ポイント低下した。前回調査の 10 月～12 月見通しが 8.1 であったので見通しとは逆の動きになっている。今回調査でも月～３月見通しが 0.0 と上昇している。









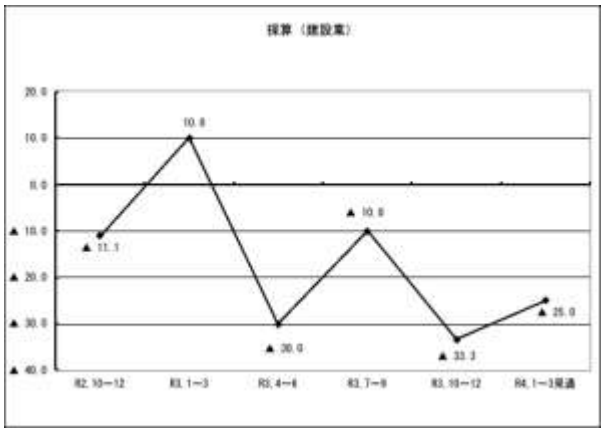
建設業

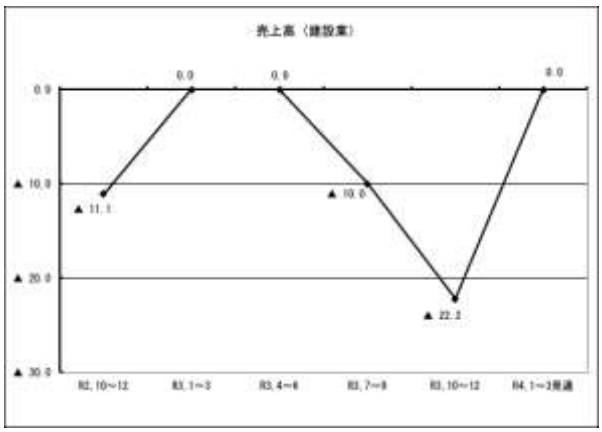
建設業の業況DIは▲11.1であり前回調査から11.1ポイント低下した。今回調査の１年前、令和２年10月～12月の業況指数が0.0でそれに続く調査では20.0となっているが、今回調査ではこのような動きにならず10月～12月実績、１月～３月見通しともに低調である。１月～３月見通しは▲12.5となっている。

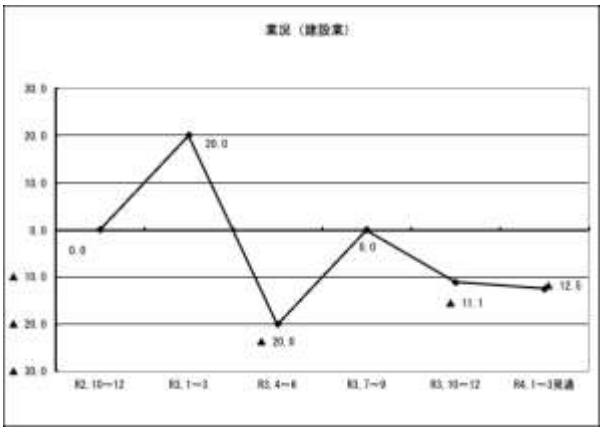
売上高DIは▲22.2で前回調査より12.2ポイント低下した。２四半期連続の低下である。ただし、１月～３月見通しが0.0に戻っていることなどを考えると、今回調査と前回調査の２四半期の数値が悪く出たものの安定的であるとも見ることができる。

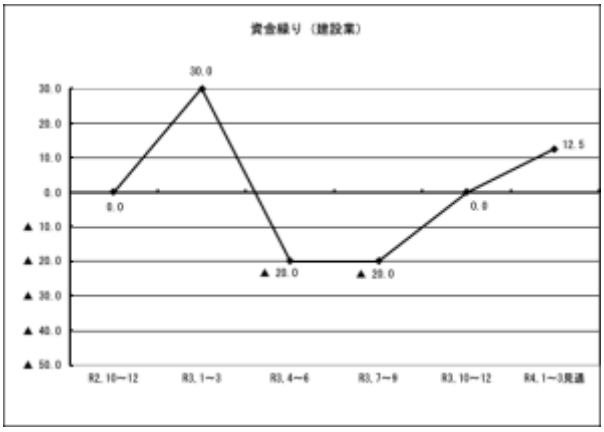
採算DIは▲33.3で前回調査より23.3ポイント低下した。前回調査では上昇したが、今回調査では前々回の調査時点と同じような低い値となった。１月～３月見通しは▲25.0であるが、大きく見ると低下の傾向と考えることができる。

資金繰りDIは0.0で前回調査より20ポイント上昇した。前回前々回の調査で▲20.0と低い数値であったが今回は0.0と戻しており、１月～３月見通しも12.5と上昇しているところを考えると資金繰りは安定的であると言える。









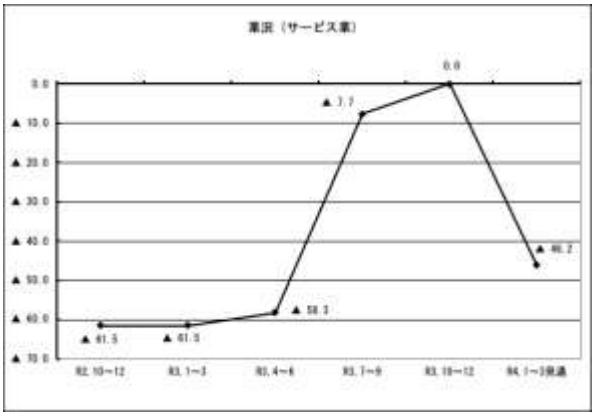
サービス業

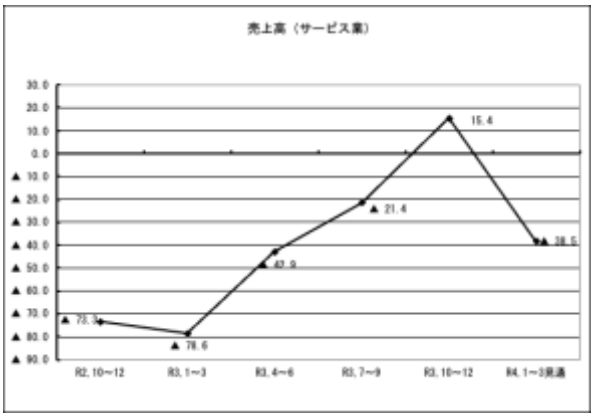
サービス業の業況DIは0.0で前回調査に比べて7.7ポイント上昇した。令和2年4月～6月期から▲50ポイント台が続いてきたが今回調査ではマイナスがなくなり、その当時に比べると大きな改善である。また、３四半期連続での上昇で好感できる材料である。一方、1月～３月見通しは▲46.2と大幅に低下しており、見通しは暗転している。

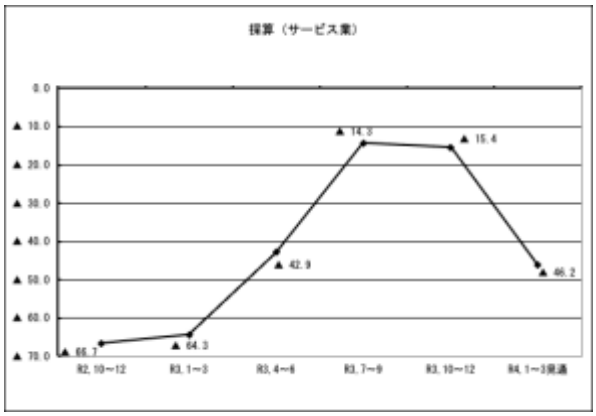
売上高DIは15.4で前回調査より36.8ポイント上昇した。これで３四半期連続の上昇である。令和１年７月～９月調査以来のプラスの数値であり、サービス業はかなり好調であったように見える。しかし、１月～３月見通しは▲38.5と反転しており、見通しは暗い。

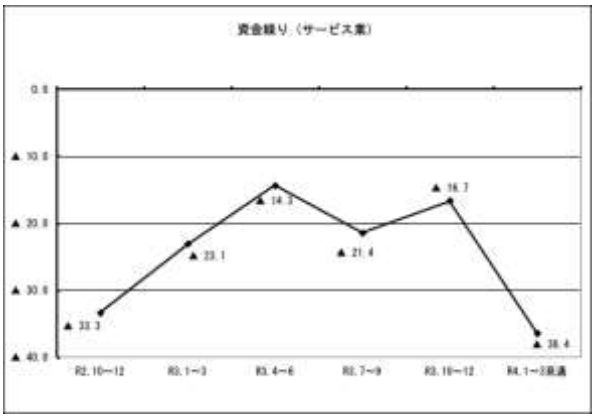
採算DIは▲15.4で前回調査より1.1ポイント低下した。前回調査とほぼ同じ数値であり、採算は安定しているように見えるが、1月～３月見通しが▲46.2と大きく下げており、業況、売上と同じく見通しは暗い。

資金繰りDIは▲16.7で前回調査より4.7ポイント上昇した。前回調査は数値が下ったものの、今回調査までは資金繰りの数値は上昇傾向にあり、回復しているようであるが、他の３指標と同じく１月～３月見通しが▲36.4と大きく落ちており資金繰り面でも暗い。









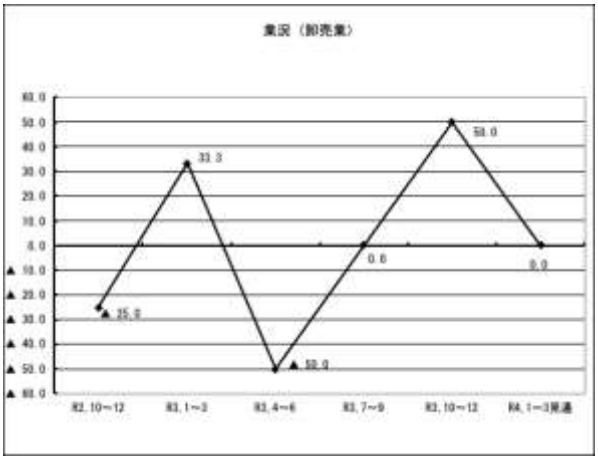
卸売業

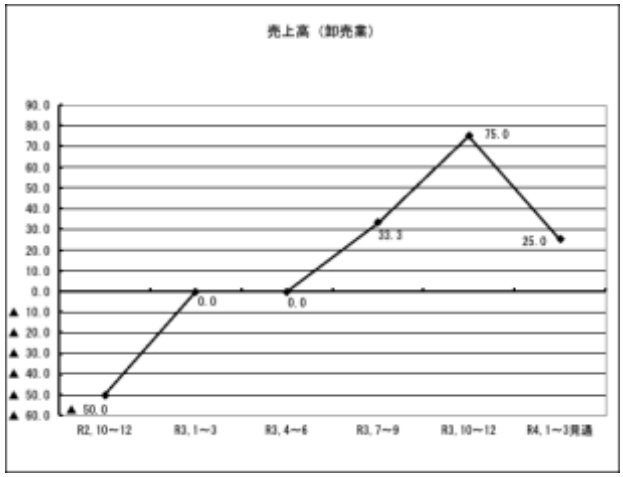
卸売業の業況DIは50.0で前回調査より50ポイント上昇した。前回調査が0.0と大きく上げ、今回も+50.0と大きく上げている。しかし、１月～３月見通しは0.0と上った分だけ下る見通しなので予断は許さない。

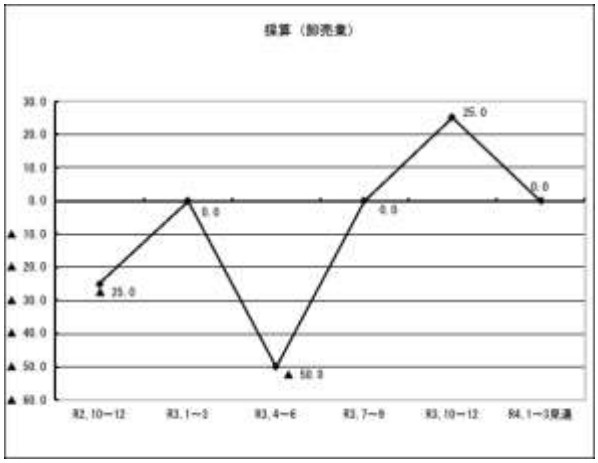
売上高DIは75.0で前回調査より41.7ポイント上昇した。２四半期連続の上昇である。１月～３月見通しは25.0と下げてはいるが、プラスの数値であり、卸売業の売上は比較的安定していると考えられる。

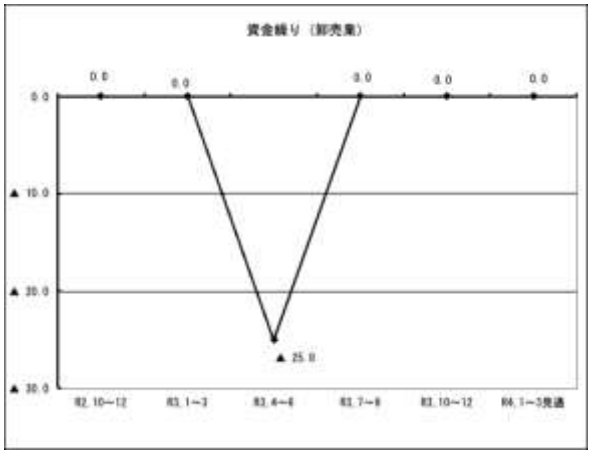
採算DIは25.0で前回調査と比べて25ポイント上昇した。採算も２四半期連続の上昇であり、採算面でも好調であったことが見て取れる。しかし、１月～３月見通しは0.0と下げており、少しの不安があるようである。

DI資金繰りDIは0.0で前回調査と同じであった。令和３年４月～６月期調査で▲25.0とした以外は0.0の資金繰りの数値で、非常に安定していると考えられる。１月～３月見通しも0.0である。





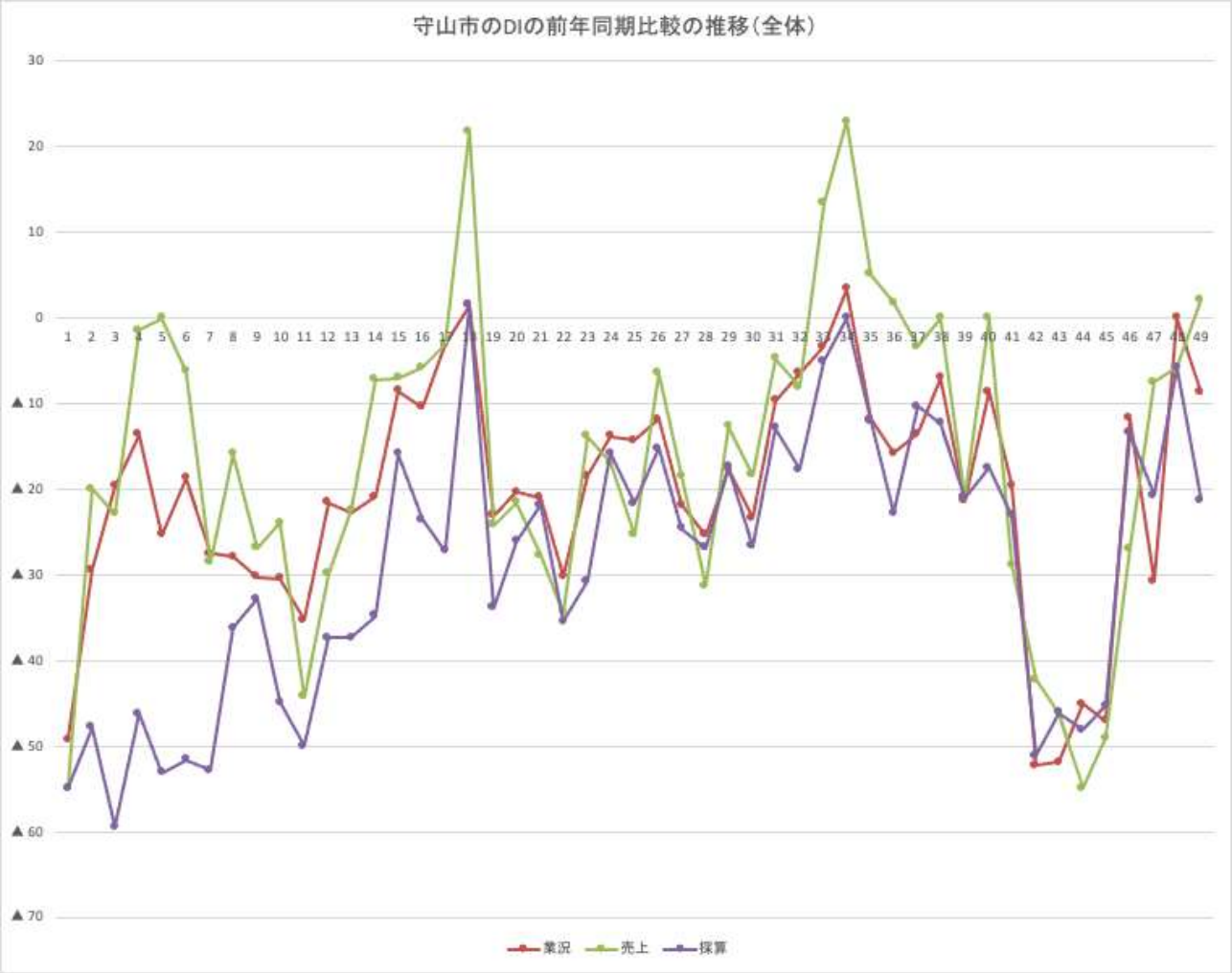




DI 指数一覧表

	昨年の同期との比較					
	業況		売上高		採算（経常利益）	
	10～12 月期動向	1～3 月期見通し	10～12 月期動向	1～3 月期見通し	10～12 月期動向	1～3 月期見通し
全　体	▲ 8.7	▲ 20.0	2.1	▲ 17.4	▲ 21.3	▲ 28.9
小売業	▲ 25.0	▲ 25.0	▲ 30.8	▲ 46.2	▲ 38.5	▲ 41.7
製造業	▲ 25.0	12.5	25.0	25.0	▲ 12.5	0.0
建設業	▲ 11.1	▲ 12.5	▲ 22.2	0.0	▲ 33.3	▲ 25.0
サービス業	0.0	▲ 46.2	15.4	▲ 38.5	▲ 15.4	▲ 46.2
卸売業	50.0	0.0	75.0	25.0	25.0	0.0

	該当期について				昨年の同期との比較	
	採算（経常利益）水準		取引の問い合せ		従業員	
	10～12 月期動向	1～3 月期見通し	10～12 月期動向	1～3 月期見通し	10～12 月期動向	1～3 月期見通し
全　体	▲ 6.8	4.4	▲ 33.3	▲ 23.8	▲ 18.6	▲ 14.6
小売業	▲ 25.0	▲ 15.4	▲ 60.0	▲ 60.0	▲ 30.0	▲ 20.0
製造業	0.0	12.5	▲ 50.0	▲ 12.5	0.0	0.0
建設業	0.0	14.3	0.0	14.3	11.1	▲ 12.5
サービス業	▲ 25.0	▲ 7.7	▲ 38.5	▲ 46.2	▲ 41.7	▲ 18.2
卸売業	75.0	75.0	25.0	0.0	▲ 25.0	▲ 25.0

	3 カ月前との比較					
	資金繰り		長期借入れ難易度		短期借入れ難易度	
	10～12 月期動向	1～3 月期見通し	10～12 月期動向	1～3 月期見通し	10～12 月期動向	1～3 月期見通し
全　体	▲ 8.9	▲ 11.9	2.8	0.0	0.0	▲ 5.6
小売業	▲ 7.7	▲ 16.7	0.0	0.0	0.0	0.0
製造業	▲ 14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
建設業	0.0	12.5	0.0	0.0	0.0	▲ 12.5
サービス業	▲ 16.7	▲ 36.4	9.1	0.0	0.0	▲ 10.0
卸売業	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

過去からの動向